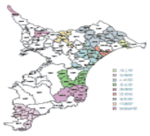
隊友千葉だより



千葉県隊友会事務局
事務所開所時間
月・水・金
10:00〜15:00

東京オリンピック・パラリンピック支援

防衛省・自衛隊は、東京オリンピック・パラリンピックの大会運営の協力をするため、陸・海・空自衛隊の隊員による東京２０２０オリンピック・パラリンピック支援団を編成して支援しました。

約８５００名の自衛隊員が競技会場でセキュリティーチェックや沿道警備、約３７０名が開閉会式や表彰式で国旗掲揚を行いました。

主な支援内容は、①国旗等の掲揚②射撃競技会場での医療サービス③自転車競技での救急搬送④セーリング競技での海上警護⑤自転車ロードレースでの沿道警備、競技会場でのセキュリティーチェックなど会場内外の整理⑥アーチェリー、射撃、近代五種競技での運営協力などでした。特に、陸自朝霞駐屯地で行われた射撃競技会場に医官が配置されたほか、看護官も各会場で医療支援にあたっていました。

千葉県内の陸自松戸駐屯地、海自館山・下総各航空基地、空自木更津基地からも隊員を支援隊要員として派遣するとともに、陸自松戸・下志津・木更津・習志野各駐屯地、海自館山航空基地は、他方面隊等から派遣された支援隊要員の管理（給食・洗濯・宿泊等）支援を日々積極的に行い、オリンピックの大会運営に寄与しました。

千葉県隊友会からも大会ボランティアとして、役員輸送（ドライバー）に１０名の会員が参加しました。活動は、築地ＤＥＰ（築地市場跡地）に配置された輸送車両（ＴＯＹＯＴＡのノア・プリウス等）を新規開発された輸送システムに基づき、大会役員を競技会場・宿泊ホテル等に送迎するものです。コロナ禍の酷暑の中、円滑な大会運営に貢献しました。

大会ボランティア活動（役員輸送）に参加した大根事務局長

§副　会　長§

副会長　田中　誠一（元事務官）

東日本大震災　現地で感じたこと

３月１１日総理が本部長となる緊急災害対策本部が設置されるとともに、３月１２日、緊急災害現地対策本部が宮城県庁に設置され、防衛省からは、運用局、統幕（運用、情報）の３名が派遣された。当時、私は運用局の訓練企画室長でＡＳＥＡＮ諸国等２５ヵ国が参加するＡＲＦ災害救援実働演習を計画していた。しかし、災害派遣の長期化が予想され、交代要員を派遣することになった。各省庁からは企画官クラスが派遣され、防衛省からは「訓練が無くなった訓練企画室長」の私が派遣されることになった。自衛隊は、県庁に方面副長を長とする指揮連絡所を開設し、現地対策本部及び県との調整にあたった。

私が現地において感じたことは、訓練（経験）をしたことがない者が、「有事に対応する」ことの難しさである。派遣されている間、色々なこと

があったが、1点だけ申し上げれば、県庁職員の意識であった。自衛隊が災害派遣の現場において被災者支援にあたっている中で、被災者の方から「薬不足」、特に持病のための薬がないとの訴えがあった。一部の避難所には医師や薬剤師の支援もあったが、避難所以外では自衛隊しか頼るものがない。県に対して、「持病の薬を含め、薬不足により被災された方が困っている旨の情報が部隊からあるが、どのように考えるか」と訪ねたところ、「市町村からそのような報告はないので動けない」旨の発言があり、「いやいや、市町村の機能がマヒしているので、現状も把握できていないのでないか」と反論したところ、最後は、「自衛隊の方は、地方自治が判っていない」といわれ、物別れになりました。その後、自衛隊は薬を含め、被災された方のニーズを「御用聞き」という形で吸い上げました。国も3月１８日に厚労省から全国の医療機関で医薬品、医療機器を融通することを容認する通達が発出された。

県という組織、地方自治は平時の体制であり、日ごろの訓練とそれに基づく職員の意識改革がなければ非常時に対応することはできないと感じた。たしかに県が直接被災民と接することはなく、あくまで市町村という組織を媒介にするということは理解できるが、「非常時には県から積極的に動くことも必要ではないか」と考えた。あれから１０年、状況は大きく変化していることを念願する。

§理　事　役§

理事役　藤田　穣（元陸自）

隊友会、防衛省・自衛隊、防衛関係協力諸団体等の皆様におかれましては、コロナ禍にあっても、益々、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、天草洋理事役の後任として、千葉県隊友会理事役を拝命致しました。

陸自少年工科学校に入校以来、約４０年間にわたり自衛隊で勤務し、その間、地方連絡部、地方協力本部、駐屯地と部外との窓口の役職に従事する機会に恵まれ、隊友会、協力諸団体等の皆様とお付合いをさせて頂き、仕事に繋がるアイデアや人生訓等をご教示頂いた次第です。

特に、隊友会の会員の皆様には、自治体主催の防災訓練への参加、被災地域での防災ボランティアとしての活動、そして、駐屯地の定年退官者の見送り行事の際、衛門の前で、隊友会の識別帽をかぶられた会員の方々が、幟を持って整列され、定年退官者を隊友会にお迎えになられるお姿・・・等々、隊友会の会員の皆様が一生懸命、広範多岐にわたる活動を企画・実行されている様子を拝見させて頂き、『国民と自衛隊とのかけ橋』としての隊友会の地位・役割を実践されていることに感銘を受け、退官後は、先輩諸兄姉のように活動させて頂こうと思いを巡らせていました。

今後は、自衛隊在職時の隊友会活動への思いの実践に向け、神原会長のご指導の下約３千名の千葉県隊友会の会員の皆様のお力添えを頂きながら、千葉県隊友会が抱える各種の課題解決への取り組みを含む諸活動に参画してまいりますので、ご助言を頂きますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、会員の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

【千葉県隊友会事務局】

〒260-0042
千葉市中央区椿森１丁目 26-9
コンラッドビル４階
電　話：043-306-2095
ＦＡＸ：043-306-2096

Ｅメール
chibataiyuu@engel.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www.chibataiyuu.com/

へ～！ そうなんだー！

最高級の毛織物で作る「パーソナルオーダースーツ」について紹介します。

私の再就職先の三甲テキスタイル(株)(元鐘紡(カネボウ))は、岐阜県大垣市の工場で現在自衛隊の制服(冬服、外とう等)を生地から製造しています。他にも学生服やスーツの生地・製品を生産しています。特に、最高級毛織物を使用したパーソナルオーダースーツ「ＳＥＮ－ＩＣＨＩ」は業界で高い評価を得ています。

昨年の新型コロナウィルス感染拡大の影響からあらゆる職域で在宅勤務が増え、家庭内では不用品の整理が行われ「タンスの肥やしの被服」も例外ではなく整理されました。残った被服は、「高級な服と自分の好みの服が多かった」との事です。弊社でもパーソナルオーダースーツの需要が増えてきております。

パーソナルオーダースーツの特徴は、着用者一人一人の体形を採寸して、その人にぴったりフィットする服を作れることです。サイズだけではなく、また、表生地はもちろん、裏地やボタンを自分の好みで選択することができます。

三甲テキスタイルに勤めるようになり、一部の方に紹介していましたが、今般正式に会社に提案し、隊友会の会員、家族、お孫さん等に紹介することにしました。価格もスーツで社員価格並みの約３万円代(デパート等の価格の１／２～１／３)となります。ただし、直接販売のため三甲テキスタイルの東京支店(江東区門前仲町)に来て頂き、ショールームでの採寸、生地やボタン等の選定が必要となります。

また、昨年から新たに新型コロナウィルスを９９％以上減少する「抗菌・抗ウィルス機能繊維加工」の生地(家庭洗濯５０回後も効果を確認)も製造しており、国内製造の「ＳＥＮ－ＩＣＨＩ」限定の生地になります。(価格もあまり上がらないため、今年に入り需要も増え、生地の種類も増えています)

この機会に「自分好みの１着を高級国内ブランド生地」で作ってみては如何でしょうか。

ご希望の会員の方は、茂木又は弊社の担当に連絡して下さい。(その際は、千葉県隊友会と伝えて下さい)

連絡先　千葉県隊友会「茂木(もてき)」迄
℡携帯　０９０－４６００－８１５３
直接担当「三甲テキスタイル(株)東京支店
パーソナルオーダースーツ販売部
山口又は鈴木
℡会社　０３－６３８６－３５３５
住所　東京都江東区永代２丁目１１－２
三甲東京永代ビル１階

令和３年度理事役会及び前期支部長等会議

令和３年７月２１日、令和３年度理事役会及び前期支部長会議を千葉市民会館特別会議室において、会長以下県役員１３名、支部長等２６名の参加を得て開催した。会長挨拶に続き、本年度隊友会本部総会にて隊友会理事長から表彰を受けた永田会員（四街道支部）、高根会員（沼南支部）及び楠田特別会員（四街道支部）に表彰状・感謝状の伝達を行った。

主要議題である「支部組織の在り方」検討については、県事務局から各支部毎の年齢構成及び各支部から事前に頂いた意見について説明した後に、代表６個支部長（沼南・鎌ヶ谷・船橋・美浜・四街道・夷隅）から支部組織と支部活動の現況等について意見発表をして頂いた。会員数の多少に係わらず各支部とも役員の選出、支部活動に大変ご苦労されている実態を改めて認識した。

県全体の平均年齢は、７４．４歳と高齢化が進んでいます。新入会者の確保と若い会員の支部活動への取り込みは喫緊の課題であると認識し、各支部長からいただいた貴重なご意見を参考に具体的方策について検討を深化させて、早急に実行に移したいと考えております。（事務局長）

◆船橋支部◆

船橋支部は２０１２年８月に私が支部長に拝命され、現在に至っております。

陸自出身で、最終部隊が第一空挺団です。習志野駐屯地を活動拠点として活動しております。

支部の活動として年１回の定期総会、年２回の懇親会(年末には春秋の叙勲祝賀会)を駐屯地司令及び近隣の国会・県・市各議員をお呼びし、支部活動の理解と部隊との交流を活発に行っております。中でも、令和元年度まで７年続けている「富士火力演習の見学」は、支部会員とその家族、船橋在住の高校生です。その高校生のほとんどは自衛隊を希望し、現在も自衛官として全国で活躍しております。

その他、「護国神社の清掃のご奉仕」「下志津駐屯地殉職者慰霊会場の清掃」「嗚呼海軍七勇殉難之跡の清掃と御供養」「地域のスクールガード・防犯パトロール」「青少年健全育成のスポーツ指導」「駐屯地銃剣道大会の審判と指導」「習志野駐屯地の植木剪定」等の活動も実施しております。

長井前支部長が２０１０年から発刊した「船橋支部だより」も５９号を数え千葉県隊友会のＨＰに掲載しておりますのでご覧下さい。

今後も支部会員全力を挙げて各種行事を継続し、会の目的達成のため支部会員皆で力を合わせて進んでいく所存です。支部長の合言葉である「融和団結と自衛隊への全面協力」を達成すべく努力してまいります。

船橋支部長　森　良雄

◆館山支部◆

平成１６年に館山支部長を拝命することになり、今年で早くも１９年目を迎えております。「光陰人を待たず」とはまさに後期高齢者のための諺言ですね。紙面の関係上、ここでは次の二点について手短に述べることにします。

支部機関紙の充実を期して　支部内の意思疎通手段として機関紙「館山支部だより」を発行し、この９月で発刊第１０５号となります。隔月発行で事務的な連絡といった一方通行を避け、紙面の半分は会員の投稿記事等を載せるなど、支部と会員を結ぶ唯一のコミュニケーション紙として編集には腐心しております。数年前から県隊友会のホームページ（ＨＰ）に掲載しています。ＨＰは一般の人々がアクセスできる点が強みだと思います。必然的に県民・市民を念頭に置いた記事等を載せることにより「県民に対する防衛意識の普及」、「中正な歴史認識や防衛・自衛隊に対する理解・認識を深める」ことに資するような広報紙としての役割を果たすことを期待するものです。

隊友会としても事業活動の面で、県隊友会ＨＰの活用の余地が多分にあると思いますが如何なものでしょうか。

殉職隊員、戦没者の慰霊顕彰について

館山には、海上自衛隊第２１航空群、また戦前は三つの海軍部隊があったこともあり、例年、館山航空基地殉職隊員の慰霊祭に加え、海軍部隊戦没者の慰霊祭ほか地域で行われる慰霊行事には支部として努めて参列しております。

３年前、館山の安房神社で行われた海軍落下傘部隊戦没者慰霊祭に、全日本空挺同志会千葉支部長ほか２０名近い会員の皆さんの姿が見られ、空挺部隊戦没者に対する陸海を超えた慰霊顕彰の思いに深い感銘を受けました。会員にはトップ記事で知らせています。

館山支部長　川村　巖